

# 現場で活躍する医療人からのメッセージ

Latticeの特長は、国内外で活躍する医療関係者とのネットワーク。(特活)シェアの代表理事を務める本田徹医師のインタビューなど、若い医師や医学生たちが医療行政や僻地支援の道に進むきっかけを提供している。

私たちは、カンボジア、タイ、東ティモール、南アフリカなどで保健医療のプロジェクトを実施すると共に、エチオピアやスマトラ沖津波(タイ)、東ティモール、日本など国内外での災害や紛争における緊急支援を行ってきました。プライマリ・ヘルス・ケアのような、地域の長期的な保健開発は、相手側の理解がなければ進みません。自分たちの役割を謙虚に理解し、長いスパンでの努力が必要となります。文化圏が異なればメンタリティも違うということ、理解することが必要です。

現場で重要なのは、英語というツールを使いこなす能力と、その地域で使われている言語を習得すること。途上国の現場で人々から信頼され活動するには、現地の言語習得もしくは理解が欠かせません。また、

現在の覇権言語である英語は、プロポーザルやレポート作成はもちろん、資金獲得のアピールに不可欠なツールとなっています。

かつて私の恩師の若月俊一先生は、農村医療を始めるうえで「医者は病院の中にふんぞり返ってはいけません。地域の中へどンドン入って行って村人たちの生活を知りなさい」とおっしゃいました。「参加型」という言葉が登場する30年も前から、お芝居を通じて保健医療のメッセージを伝え、日本におけるプライマリ・ヘルス・ケアの原型を作られた方です。そういった先人の財産に触れて学ぶことも必要ではないでしょうか。

「Lattice」は、国際協力を目指す医療人材に対して「なぜ自分は医者を、看護師を目指すのか」という問

題意識とモチベーション形成に必要な情報を、バランス良く提供してくれる雑誌だと思います。



本田徹さん Honda Toru

1947年生まれ。北海道大学医学部卒。77年青年海外協力隊派遣医師としてチュニジアへ。83年に(特活)シェア設立に参加。88年から代表理事を務める。海外での活動はもちろん、在日外国人への医療活動も積極的に行う。08年からは台東区浅草病院に勤務。山谷・山友クリニックボランティアとしても活動。



石田志織さん Ishida Shiori

小児科医。2004年に宮崎医科大学医学部を卒業後、京都第二赤十字病院で初期研究を行い、綾部市立病院で小児科医として地域医療に従事。2010年から1年間、(特活)ジャパンハートのミャンマー事業に参加。現在は出産を控え、国内で小児がんの子どもたちをサポートするスマイルスマイル事業リーダーを務めている。

中学2年の時にマザー・テレサを知り、父が医師だったこともあり、「子どもたちのために医師として何かをしたい」と考えるようになりました。そして小児科医となり、国内での医療活動にもやりがいは感じていましたが、「若いうちに自分の原点である海外の子どもたちのもとへ行っておきたい」という思いが押さえきれず、ジャパンハートを知ってすぐにミャンマー事業に参加しました。

現地では、薬も限られ、設備もない状況で、保育器などを工夫して作

るところから始めました。「もっと知識や経験があれば……」考えることも多かったけれど、そのぶん、帰国後の課題が明確になったと思います。出産後も、同じ活動に携わる産婦人科医の夫と共に海外で活動できたらと考えています。この分野に興味がある人は、やれない理由を考えるより、やりたい思いを周りに伝えて一歩踏み出してほしい。途上国での経験は、日本での緊急医療活動などにも大いに生かされるはずですよ。

## 体験派医療人マガジン「Lattice」とは

医学部受験専門予備校「YMS(代々木メディカル進学舎)」では、医学生や医師をはじめ、医療に携わる人々の成長を応援しようと、2002年から、体験派医療マガジン「Lattice」を発行している。同誌のコンセプト、「医のアートの追求」「アジア途上国を中心とした国際医療貢献」。アフガニスタンで医療・農業支援を行っている中村哲医師や、チェルノブイリなどで医療活動を続ける鎌田實医師、長野県を拠点に僻地医療に取り組む色平哲郎医師など、国内外の医療現場の最前線で働く医療人を多数紹介してきたほか、医師を志す学生の体験レポートを掲載するなど、若い医療関係者のバイブルとなっている。

